

「レポートタグ」 レポートテンプレートの作成方法

Google Cloud BigQuery 出力



目 次

レポートテンプレートの作成方法 Google Cloud BigQuery 出力

1. [レポートテンプレートとは](#)
2. [レポートタグとディレクティブ](#)
3. [Google Cloud BigQuery での
レポートタグの記述](#)
4. [CREATE 文](#)
 1. [レポートタグの構成](#)
 2. [① glu に対する指示文](#)
 3. [② BigQuery に対する指示文](#)
4. [DELETE 文](#)
 1. [レポートタグの構成](#)
 2. [① glu に対する指示文](#)
 3. [② BigQuery に対する指示文](#)
5. [INSERT 文](#)
 1. [レポートタグの構成](#)
 2. [① glu に対する指示文](#)
 3. [② BigQuery に対する指示文](#)

1. レポートテンプレートとは

glu から Google Cloud BigQuery へレポートを出力するには、専用のレポートテンプレートが必要です。
レポートテンプレートは、レポートの出力内容を glu へ指示するためのファイルです。

Google Cloud BigQuery 用のレポートテンプレート

- **テキストファイル記述**

メモ帳などのテキストエディタに指示内容を記述します。

- **SQL文の直接記述**

CREATE、DELETE、INSERT などの SQL 文を記述します。

- **拡張子**

ファイルの拡張子は「xxx.sql」とします。

- **文字コード**

「UTF-8」（BOM無し）に設定します。



```
BigQuery_campaign_daily.sql
+
ファイル 編集 表示

${IMC_BEGIN_TAG}

PERIOD_START=from,month,1,1
PERIOD_END=from,month,0,-1

GROUP=report_group_default

ASPECT=report_aspect_none

SEGMENT=
SELECTOR=
FROM_LEVEL=campaigns
DAILY_LEVEL=any
SHOW_HEADER=report_show_header_none
SHOW_ALL_ASPECT_ROWS=false
SUM=report_sum_none
OUTPUT_FORMAT=sql
OUTPUT_CODE=utf8
FLAT=false

TEXT_BODY=${
CREATE TABLE IF NOT EXISTS
`#[@node.bq_dataset_name].campaign_daily`
(
  report_date DATE,
  media STRING,
  account STRING,
  account_id STRING,
  campaign STRING,
  campaign_id STRING,
  campaign_type STRING,
  campaign_sub_type STRING,
  impressions INT64,
  clicks INT64,
  cost NUMERIC,
  conversions NUMERIC,
  conversion_value NUMERIC,
)
PARTITION BY `report_date`
;
${IMC_END_TAG}

行 7、列 1 | 695 文字
```

2. レポートタグとディレクティブ

レポートタグとは、レポート出力の「指示書」です。

ディレクティブとは、レポートタグ内に記述する個々の具体的な「指示内容」です。

レポートタグ

- **指示書の役割**
\${IMC_BEGIN_TAG} から \${IMC_END_TAG} までが1つの指示書で、レポートタグと呼びます。
- **複数タグの記述**
1つのファイル内には、複数のレポートタグを含めることが可能です。

ディレクティブ

- **具体的な指示内容**
レポートタグの中に記述する個々の指示内容をディレクティブと呼びます。
- **記述形式**
「名前=値」の形式で記述します。
- **コメントアウト**
先頭に「#」を付与すると、指示ではなくコメントとして扱われます。

```
# CREATE
${IMC_BEGIN_TAG}

PERIOD_START=from,month,1,1
PERIOD_END=from,month,0,-1

GROUP=report_group_default
.
.
.
${IMC_END_TAG}
```

レポートタグ

ディレクティブ

行 1、列 9 130 文字 150% Windows (CRLF) UTF-8

3. Google Cloud BigQuery でのレポートタグの記述

Google Cloud BigQuery 用のレポートテンプレートでは下記 3 つの SQL 文を作成可能です。
レポートタグを SQL 文ごとに用意してファイル内に順に記述します。

CREATE 文

データの格納先となるテーブルが存在しない場合に、指定された定義に基づいて、BigQuery上にテーブルを新規作成します。
出力したい項目（date、campaign_id、clicks 等）とそれに応じたデータ型（STRING、INT64、NUMERIC 等）をセットで記述します。

DELETE 文

新規データを追加する直前に、処理対象期間の既存レコードを削除します。
処理対象期間の開始日・終了日などを指定して、該当範囲のデータを削除対象として条件を記述します。

INSERT 文

glu が各広告媒体や解析ツールから自動集約した最新のデータを書き込みます。
挿入先となるテーブルの「フィールド名」と glu の「カラム名」を対応させて記述します。

CREATE 文

date	campaign_id	clicks	conversions
↓	↓	↓	↓
DATE	STRING	INT64	NUMERIC

テーブルの定義

DELETE 文

date	campaign_id	clicks	conversions
2026-09-01	cmp-1001	1,240	38
2026-09-01	cmp-1002	850	17
2026-09-02	cmp-1001	1,410	45
2026-09-02	cmp-1002	920	21

データの削除

INSERT 文

date	campaign_id	clicks	conversions
2026-09-01	cmp-1001	1,240	38
2026-09-01	cmp-1002	853	17
2026-09-02	cmp-1001	1,408	46
2026-09-02	cmp-1002	925	21
2026-09-03	cmp-1001	1,350	40
2026-09-03	cmp-1002	900	19

データの追加

4. CREATE 文



4.1. CREATE 文 レポートタグの構成

Google Cloud BigQuery 用のレポートテンプレートでは下記 3 つの SQL 文を作成可能です。
レポートタグを SQL 文ごとに用意してファイル内に順に記述します。

CREATE 文

テーブルの新規作成

- ・データセットにテーブルを作成するための指示文です。
- ・出力先がない場合、フィールド（データ型）を定義して新規作成します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

DELETE 文

既存データの削除

- ・既存データを削除するための指示文です。
- ・重複防止のため、処理対象期間に該当する既存レコードを事前に削除します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

INSERT 文

新規データの追加

- ・新規データを追加するための指示文です。
- ・当該処理で取得した新しいレポートデータを挿入します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

4.2. CREATE 文 ① glu に対する指示文 (1/2)

データセットにテーブルを作成するための指示文です。データセットは事前にご準備ください。

「glu に対する指示文」と「BigQuery に対する指示文」の 2 つで構成されます。

本項では、glu に対する指示文について解説します。

■ glu に対する指示文（記述例）

```
${IMC_BEGIN_TAG}
PERIOD_START=from,month,1,1
PERIOD_END=from,month,0,-1
GROUP=report_group_default
ASPECT=report_aspect_none
SEGMENT=
SELECTOR=
FROM_LEVEL=campaigns
DAILY_LEVEL=any
SHOW_HEADER=report_show_header_none
SHOW_ALL_ASPECT_ROWS=false
SUM=report_sum_none
OUTPUT_FORMAT=sql
OUTPUT_CODE=utf8
FLAT=false
```

■ 定義

glu に対する指示文では、データの集計期間、取得階層、出力フォーマットといった処理の実行条件を定義する項目です。

■ 記述例の要素

- PERIOD_START / PERIOD_END（期間定義）
- ASPECT（データの集約方式）
- FROM_LEVEL（データの集計元）
- OUTPUT_FORMAT（出力形式）
- OUTPUT_CODE（文字コード）

4.2. CREATE 文 ① glu に対する指示文 (2/2)

タグのディレクティブについての解説です。記載のないディレクティブにつきましては、基本的には変更不要です。ご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

PERIOD_START=from,month,1,1

PERIOD_END=from,month,0,-1

- 期間の 起点 / 終点 を指定します。この期間にデータがあった場合にテーブルが作成されます。
- 記述については、ヘルプサイトをご確認ください。
 - https://help.glu.jp/ja/tags/tags_basic/tagforcsv/#PERIOD

OUTPUT_FORMAT=sql

OUTPUT_CODE=utf8

- 必ずこのディレクティブを設定してください。

4.3. CREATE 文 ② BigQuery に対する指示文 (1/2)

データセットにテーブルを作成するための指示文です。

「glu に対する指示文」と「BigQuery に対する指示文」の 2 つで構成されます。

本項では、BigQuery に対する指示文について解説します。

■ BigQuery に対する指示文 (記述例)

```
TEXT_BODY=${  
  CREATE TABLE IF NOT EXISTS  
    `${@node.bq_dataset_name}.campaign_daily`  
  (  
    report_date DATE,  
    media STRING,  
    account STRING,  
    account_id STRING,  
    campaign STRING,  
    campaign_id STRING,  
    campaign_type STRING,  
    impressions INT64,  
    clicks INT64,  
    cost NUMERIC,  
    conversions NUMERIC,  
    conversion_value NUMERIC,  
  )  
  PARTITION BY `report_date`  
  CLUSTER BY `media`  
;  
}  
${IMC_END_TAG}
```

■ 定義

データを受け取る BigQuery 側のテーブルを新規に定義します。
フィールド名とデータ型のペアを記述します。

■ 記述例の要素

- CREATE TABLE IF NOT EXISTS (存在しない場合作成)
- report_date DATE 等 (データフィールド定義)
- PARTITION BY `report\_date` (パーティション設定)
- CLUSTER BY `media` (クラスタリング設定)

4.3. CREATE 文 ② BigQuery に対する指示文 (2/2)

BigQuery に対する指示文についての解説です。記載のないディレクティブにつきましては、基本的には変更不要です。ご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

``#{@node.bq_dataset_name}.campaign_daily``

- データセット名、テーブル名を指定します。
- データセット名 (``#{@node.bq_dataset_name}``) : glu 管理画面のダイスで設定した値が反映されます。
- テーブル名 (`campaign_daily`) : 任意の名称を設定してください。

media STRING 等

- フィールド名、データ型を指定します。
- フィールド名 (`media` 等) : 任意の名称を設定してください。
- データ型 (`STRING` 等) : GoogleSQL のデータ型に準拠してください。
 - https://docs.cloud.google.com/bigquery/docs/schemas?hl=ja#standard_sql_data_types

PARTITION BY ``report_date``

- データを `report_date` (日付) ごとに、パーティション分割します。(任意項目)

CLUSTER BY ``media``

- データを `media` (メディア) ごとに、クラスタリングします。(任意項目)

5. DELETE 文



5.1 DELETE 文 レポートタグの構成

Google Cloud BigQuery 用のレポートテンプレートでは下記 3 つの SQL 文を作成可能です。
レポートタグを SQL 文ごとに用意してファイル内に順に記述します。

CREATE 文

テーブルの新規作成

- ・データセットにテーブルを作成するための指示文です。
- ・出力先がない場合、フィールド（データ型）を定義して新規作成します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

DELETE 文

既存データの削除

- ・既存データを削除するための指示文です。
- ・重複防止のため、処理対象期間に該当する既存レコードを事前に削除します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

INSERT 文

新規データの追加

- ・新規データを追加するための指示文です。
- ・当該処理で取得した新しいレポートデータを挿入します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

5.2. DELETE 文 ① glu に対する指示文 (1/2)

既存データを削除するための指示文です。

「glu に対する指示文」と「BigQuery に対する指示文」の 2 つで構成されます。

本項では、glu に対する指示文について解説します。

■ glu に対する指示文（記述例）

```
#{IMC_BEGIN_TAG}
```

```
PERIOD_START=from,day,29,0
```

```
PERIOD_END=from,day,0,0
```

```
ASPECT=report_aspect_daily
```

```
SERIES=report_series_none
```

```
SEGMENT=
```

```
SELECTOR=
```

```
FROM_LEVEL=campaigns
```

```
DAILY_LEVEL=any
```

```
SHOW_HEADER=report_show_header_none
```

```
SUM=report_sum_none
```

```
FLAT=false
```

```
OUTPUT_FORMAT=sql
```

```
OUTPUT_CODE=utf8
```

```
CHUNK_ROWS=1000
```

■ 定義

削除対象とする期間や単位を定義する項目です。

■ 記述例の要素

- ・ PERIOD_START / PERIOD_END（期間定義）
- ・ ASPECT（データの集約方式）
- ・ FROM_LEVEL（データの集計元）
- ・ OUTPUT_FORMAT（出力形式）
- ・ OUTPUT_CODE（文字コード）
- ・ CHUNK_ROWS（処理行数）

5.2. DELETE 文 ① glu に対する指示文 (2/2)

タグのディレクティブについての解説です。記載のないディレクティブにつきましては、基本的には変更不要です。ご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

PERIOD_START=from,day,29,0

PERIOD_END=from,day,0,0

- 期間の 起点 / 終点 を指定します。この期間のデータが削除されます。
- 必ず INSERT 文と同じ期間を指定してください。
- 記述については、ヘルプサイトをご確認ください。
 - https://help.glu.jp/ja/tags/tags_basic/tagforcsv/#PERIOD

ASPECT=report_aspect_daily

- レポートデータ集約方式を指定します。
- 記述については、ヘルプサイトをご確認ください。
 - https://help.glu.jp/ja/tags/tags_basic/tags_basic_2/#content_1_13

OUTPUT_FORMAT=sq1

OUTPUT_CODE=utf8

- 必ずこのディレクティブを設定してください。

5.3. DELETE 文 ② BigQuery に対する指示文 (1/2)

既存データを削除するための指示文です。

「glu に対する指示文」と「BigQuery に対する指示文」の2つで構成されます。

本項では、BigQuery に対する指示文について解説します。

■ BigQuery に対する指示文 (記述例)

```
TEXT_HEAD=${
  DELETE from `${@node.bq_dataset_name}.campaign_daily` where
  report_date in (
}
TEXT_BODY=${
  PARSE_DATE('%Y/%m/%d', ${t @data[0]})
}
TEXT_BCAT=,
TEXT_FOOT=${
  };
}
${IMC_END_TAG}
```

■ 定義

重複登録を防止するため、取り込む対象期間のデータを事前に削除するSQL文を定義します。

■ 記述例の要素

- ・ TEXT_HEAD (テーブルの指定)
- ・ TEXT_BODY (対象データ (日付) ごとに展開される基本構文)
- ・ TEXT_BCAT (結合文字の指定)
- ・ TEXT_FOOT (クエリ末尾の指定)

5.3. DELETE 文 ② BigQuery に対する指示文 (2/2)

BigQuery に対する指示文についての解説です。記載のないディレクティブにつきましては、基本的には変更不要です。ご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

``#{@node.bq_dataset_name}.campaign_daily``

- データセット名、テーブル名を指定します。
- データセット名（``#{@node.bq_dataset_name}``）：glu のダイスで設定した値が反映されます。
- テーブル名（`campaign_daily`）：任意の名称を設定してください。

where report_date in (

- 処理対象とするデータを絞り込むための条件指定です。
- `report_date` の部分には、BigQuery の日付のフィールド名を指定します。

6. INSERT 文



6.1 INSERT 文 レポートタグの構成

Google Cloud BigQuery 用のレポートテンプレートでは下記 3 つの SQL 文を作成可能です。
レポートタグを SQL 文ごとに用意してファイル内に順に記述します。

CREATE 文

テーブルの新規作成

- ・データセットにテーブルを作成するための指示文です。
- ・出力先がない場合、フィールド（データ型）を定義して新規作成します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

DELETE 文

既存データの削除

- ・既存データを削除するための指示文です。
- ・重複防止のため、処理対象期間に該当する既存レコードを事前に削除します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

INSERT 文

新規データの追加

- ・新規データを追加するための指示文です。
- ・当該処理で取得した新しいレポートデータを挿入します。

構成要素

- ① glu に対する指示文
- ② BigQuery に対する指示文

6.2. INSERT 文 ① glu に対する指示文 (1/2)

新規データを追加するための指示文です。

「glu に対する指示文」と「BigQuery に対する指示文」の 2 つで構成されます。

本項では、glu に対する指示文について解説します。

■ glu に対する指示文（記述例）

```
${IMC_BEGIN_TAG}
```

```
GROUP=report_group_default
```

```
PERIOD_START=from,day,29,0
```

```
PERIOD_END=from,day,0,0
```

```
ASPECT=report_aspect_campaigns
```

```
SERIES=report_series_daily
```

```
DAILY_LEVEL=any
```

```
FROM_LEVEL=
```

```
FLAT=true
```

```
...（中略）...
```

```
OUTPUT_FORMAT=sql
```

```
OUTPUT_CODE=utf8
```

```
CHUNK_ROWS=1000
```

■ 定義

追加対象とする期間や単位を定義する項目です。

■ 記述例の要素

- ・ **PERIOD_START / PERIOD_END**（期間定義）
- ・ **ASPECT**（データの集約方式）
- ・ **SERIES**（データの系列）
- ・ **DAILY_LEVEL**（期間集計の対象）
- ・ **FROM_LEVEL**（データの集計元）
- ・ **FLAT**（データの展開方法）
- ・ **OUTPUT_FORMAT**（出力形式）
- ・ **OUTPUT_CODE**（文字コード）
- ・ **CHUNK_ROWS**（処理行数）

※ 通常の指示文と同様に、フィルタや表示オプションなどの標準的なディレクティブを設定します。

6.2. INSERT 文 ① glu に対する指示文 (2/2)

タグのディレクティブについての解説です。

記載のないディレクティブにつきましては、通常の指示文と同様のルールで設定してください。

PERIOD_START=from,day,29,0

PERIOD_END=from,day,0,0

- 期間の 起点 / 終点 を指定します。この期間のデータが追加されます。
- 必ず DELETE 文と同じ期間を指定してください。
- 記述については、ヘルプサイトをご確認ください。
 - https://help.glu.jp/ja/tags/tags_basic/tagforcsv/#PERIOD

ASPECT=report_aspect_campaigns

- レポートデータ集約方式を指定します。
- 記述については、ヘルプサイトをご確認ください。
 - https://help.glu.jp/ja/tags/tags_basic/tags_basic_2/#content_1_13

SERIES=report_series_daily

- ASPECT で指定した視点を系列（日別、月別）で分割します。
- 記述については、ヘルプサイトをご確認ください。
 - https://help.glu.jp/ja/tags/tags_basic/tags_basic_2/#content_1_20

CHUNK_ROWS=1000

- 1回あたりにまとめて処理（分割処理）するデータの行数を指定します。

6.3. INSERT 文 ② BigQuery に対する指示文 (1/2)

新規データを追加するための指示文です。

「glue に対する指示文」と「BigQuery に対する指示文」の 2 つで構成されます。

本項では、BigQuery に対する指示文について解説します。

■ BigQuery に対する指示文 (記述例)

```
TEXT_HEAD=${
INSERT `#{@node.bq_dataset_name}.campaign_daily`
(report_date,media,account,account_id,campaign,campaign_id,c
ampaign_type,campaign_sub_type,impressions,clicks,cost,video
_views,conversions,conversion_value,all_conversions,all_conv
ersion_value) VALUES
}
TEXT_BODY=${
(#{t @data[:bq_report_date]},#{t @data[:media_type]},#{t
@data[0]},#{t @data[:account_id]},#{t @data[1]},#{t
@data[:campaign_id]},#{t @data[:cp_type]},#{t
@data[:cp_sub_type]},#{t @data[:reportimps]},#{t
@data[:report_clicks]},#{t @data[:report_x_cost_fee]},#{t
@data[:report_video_view]},#{t @data[:report_conv_t]},#{t
@data[:report_revenue]},#{t @data[:report_conv_a]},#{t
@data[:report_revenue_a]})
}
TEXT_BCAT=,
TEXT_FOOT=${
;
}
${IMC_END_TAG}
```

■ 定義

抽出したデータを BigQuery に追加する SQL 文を定義します。

■ 記述例の要素

- ・ TEXT_HEAD (テーブル・カラムの指定)
- ・ TEXT_BODY (データのマッピング)
- ・ TEXT_BCAT (結合文字の指定)
- ・ TEXT_FOOT (クエリ末尾の指定)

6.3. INSERT 文 ② BigQuery に対する指示文 (2/2)

BigQuery に対する指示文についての解説です。記載のないディレクティブにつきましては、基本的には変更不要です。ご不明な点がございましたら、お問い合わせください。

INSERT `#{@node.bq\_dataset\_name}.campaign\_daily`

- データセット名、テーブル名を指定します。
- データセット名（#{@node.bq_dataset_name}）：glu のダイスで設定した値が反映されます。
- テーブル名（campaign_daily）：任意の名称を設定してください。

(report_date,media,account,account_id,campaign,campaign_id,campaign_type, ,all_conversion_value) VALUES }

- BigQuery 側のフィールド名を指定します。出力（追加）したい項目を順に並べます。

(#{t @data[:bq_report_date]},#{t @data[:media_type]},#{t @data[0]},#{t @data[:account_id]},#{t @data[1]},#{t @data[:campaign_id]},#{t @data[:cp_type]}, ,#{t @data[:report_revenue_a]})

- glu 側のダイスのカラムを指定します。上記で指定した BigQuery 側の項目順に合わせて並び順を一致させます。
- #{t @data[:bq_report_date]} → #{t @data[:ダイスのカラム名]}
- #{t @data[0]}、#{t @data[1]} → #{t @data[視点列]}



ATARA